

## 議会証言と市場の反応

格闘技などで普段は強いのだが特定の相手に弱い選手がいる。苦手意識がある。先日のヘルシンキでの米大統領トランプとロシア大統領プーチンの会談後の記者会見を見ていて、トランプはプーチンに苦手意識を持っているのではないかと感じた。他の国の首脳に対して見せる威圧的な感じや横柄さも影を潜めていた。相手に何か弱みを握られているのではと思わせるような怯えさえ垣間見た感じがした。トランプの好きな世界最大のプロレス団体 **WWE** のスーパースターがある一戦の敗北を境に急激に勢いを失っていった例も少なからずある。

その大統領が任命した **FED** の議長パウエルによる議会証言が昨日上院で開かれた。半年に一度の議会証言は経済見通しや政策方針を知る機会なので市場では注目されるのが常だ。

今後も徐々に利上げを続ける、状況次第で **2%** を超えるインフレも許容する、労働市場は今後も改善が続く、景気刺激策と貿易問題のリスクがバランスしている、等の内容で、これまでの **FOMC** 後の記者会見で述べていた見方と大きな変化はない。

金融市場の反応も、フェドファンドの先物レートから類推する利上げの可能性が証言前日より **1%** ほど増しただけでほとんど変化はない。直近での **12** 月の利上げの可能性は **6** 割程度だ。市場と **FOMC** のメンバーの利上げ見通しは、以前市場が **9** 月にもう一度で今年三回、一方 **FOMC** が **9** 月、**12** 月のもう **2** 回の計 **4** 回だった。だが **1** か月ほど前から市場の見方が **FOMC** の方にサヤ寄せされてきた。

だが変わらないことで気になる点もある。長期金利の安定だ。長期債のイールドは一時 **3%** を超えたが、その後は **3%** 以下で安定している。直近では **10** 年債は **2.87%** だ。そのためイールドカーブのフラット化が進行している。**2** 年債とのスプレッドは少し前には **50** ベーシスポイント (**BP**) を切るかどうかが話題になっていたが、今や **25BP** に縮小している。イールドカーブのフラット化あるいは逆イールドは、教科書的には景気の先行き懸念やインフレ率の停滞などを表すとされる。

こうした状況は貿易戦争が始まる前から進行していた状況だが、貿易戦争の拡大で拍車がかかった感がある。パウエルも関税の報復合戦の長期化は経済成長のリスク要因と明確に指摘した。

プーチンとの一戦で勢いを失ったかもしれないトランプがこのままメインイベントのヒール役を降りるとは思えないが、それを期待する人は口には出さないが多いだろう。パウエルもきっとそうに違いない。